幾多の感謝と感激を　こめて

親愛なる皆様に贈る

昭和59年8月25日

棚沢　泰

# 日本の行方　昭21-1-1 宮城県 尾松村にて

食糧もない，衣服もない，住いもない，仕事もなければ，金もない。
この　ない　ない　ずくしの　日本で，一体　何が残っているのだ。
それは　一億の人口。馬力もある。教養もある。頭脳(あたま)も　まんざら悪くはない。
資源はなくとも　生産はできる。狭い国でも　工業人口を養うのには十分だ。
それに国際的な　大きな視野さえ　ひらけてきた。
そうだ，工業による社会への奉仕，工業立国を目指して，
女も男も，老いも若きも，大臣も農民も，商人も技術者も，文化人も労働者も，
長期の構想を練って，あせらず，たゆまず，確実に，
互に手と手を　とり合って，一歩，一歩，進もうでは　ないか。
これこそ　総ざんげした，平和を願う国民の，生きる道では　あるまいか。

林子平（六無斎）「親もなし，妻なし，子なし，厩木なし，金もなけれど，死にたくもなし」

自由詩　　運　命

昭57-3-11　棚沢泰

運命よ。
世にお前ほど気まぐれで，
不気味なものはない。
時にお前は幸運の裳(もすそ)で
人々を狂喜させる。
時にお前は悲運の翼で
人々を悲しみのどん底に突き落す。
ドイツの作家クライストは，
賞を得た，その死の床で呟(つぶや)いた。
「ある時には酒はなく，
ある時には盃はなし」と。
だが，私はお前を憎まない。
むしろ，人間に責任があるからだ。
運命よ。
私は，お前の正体を理解することに努(つと)め，
良心のささやきを聞きながら，
お前と共に，しっかりと，歩み続けて，
行きたいと，願っている。

(註)「成功者とは幸運に恵まれた人のことである」
「幸運によって得られた幸福は常に皮層的である。悲運の中で獲得した幸福こそ真の幸福である」「単純な履歴を持つ人は幸福である」「出会い」

自由詩　この広大な空間の中で

昭57-1-30　棚沢泰

人間は広大な空間の中を
　目に見えないような　微小な動物として
　　生き続けている。
しかし　その微小な肉体の中にも
　心が宿っている。
あるときは喜び，あるときは悲しみ，
　あるときは胸を張り，あるときは悄然として。
そうだ，たとえ微小な生きものであっても，
　全力を尽くし，心に灯(ともしび)をともして，
この広大な空間を，
　活き活きと飛びまわろうではないか。

## 自由詩　時は流れる

昭57-1-30　棚沢泰

時は，マイナス無限大から，
　プラス無限大まで，
チック・タックと，極めて正確に，
　一瞬の休みもなく，流れ続ける。
しかも決して
　過去に遡(さかのぼ)ることはない。
人間は時に流されて誕生し，
　時に流されて成仏する。
その間に，何を考え，何をしたら，
　良いのであろうか。

自由詩　　波

昭24-3-25　棚沢泰

(1)　おお波よ。世にお前ほど不思議なものはない。
ある時は光の波となつて眼がねのような回折像を作る。
ある時は光の粒となつてぽんぽんと光電管をたたく。
Huygensに名をなさしめたのもお前だ。
De Broglieに名をなさせたのもお前だ。
おお波よ。お前は周期的現象なのか。
それとも孤立した点なのか。

(2)　彼女からのウインク。それは粒なのか。それとも波なのか。
私は時に波動的にボートなる。
時に粒子的にゾクゾクする。
おお波よ。世にお前ほどチャーミングなものはない。

(3)　君よ。げに人世は波動である。
順風満帆の高潮もあれば、ガツカリ消沈の引潮もある。
しかし、その中にただ一つ。愛情という粒がある。
その粒は時に泥にまみれつつ君を助け、
時にさん然とその行手を輝かす。
おお波よ。世にお前ほど不思議なものはない。

(註)　愛情は人間の持つ本能の一つである。しかし何故か極めてこわれ易く、不純になり易い。時には厳しく、時にはやさしく、いたわつて育て上げ、常に純化して行かなければならない。

## DO YOUR BEST

Henry Wadsworth Longfellow (1807~82)

"Do your best, your very best,
and do it every day."

"One thing at a time,
and all things in succession."

"Little boys and girls, that is the wisest way."

## 自由詩　研究とは

昭57-4-1　棚沢泰

(1) 親愛なる皆さん。

この世の中で 一番重要な言葉を知つて いますか。

それは「研究」という言葉です。

この言葉は，記憶力や，蓄積を主力とする「勉強」や「知識」，

えらそうで，いかめしい「学問」という言葉とは，ちがいます。

(2) 「研究」とは，未知の現象や，物に，疑いを持つて，

その正体や，対策を 明らかに しようとする，

意図であり，行為であります。

「研究」では，人間は 真理や 真実に 対面 するので，

「自我」は抹殺され，条理を追う必要上，当然「考える能力」や，

「実際にやつてみる能力」が，自然に発達します。

(3) では 研究は 何を目的として行つたら良いでしょうか。

Berlin 大学の初代学長 Wilhelm von Humbolt は

「研究は 人類の歴史の要請に こたえて行うべきものである」

と言つています。

なんと 立派な言葉ではありませんか。

そうです。人類は「研究」によつて進歩します。

「すばらしいかな汝(なんじ)，汝の名を研究と呼ぶ」と言えましよう。

(註) 研究は「なぜか」という問いから始まる。